

包装が地球を救う 環境サステナブル・ソリューション

“包めば包むほどWell-Beingな未来が実現するパッケージ” 一緒に作りませんか



わたしたち包装産業は、
循環型経済(Circular Economy)×技術革新(Innovation)×協働(Collaboration)を通じて、
Well-Beingな未来の実現を目指します。

“生活の利便性” “社会課題への対応” “環境課題への対応”
時代と共に常に変化するのがパッケージです。
(Supporting Business in All Industries & Planet)

地球の危機

Crisis of Earth
《地球温暖化ガス削減》
《枯渇資源からの代替》
《廃棄物(ごみ)削減》

生命の危機

Crisis of Life
《自然資本との共生(生物多様性の保全)》
《食料・エネルギーの確保》
《侵攻・分断・貧困・パンデミック》

地球をまもるパッケージ

《代替素材・持続可能エネルギーで作るカーボンニュートラル・パッケージ》
《資源循環でごみゼロを目指すゼロエミッション・パッケージ》

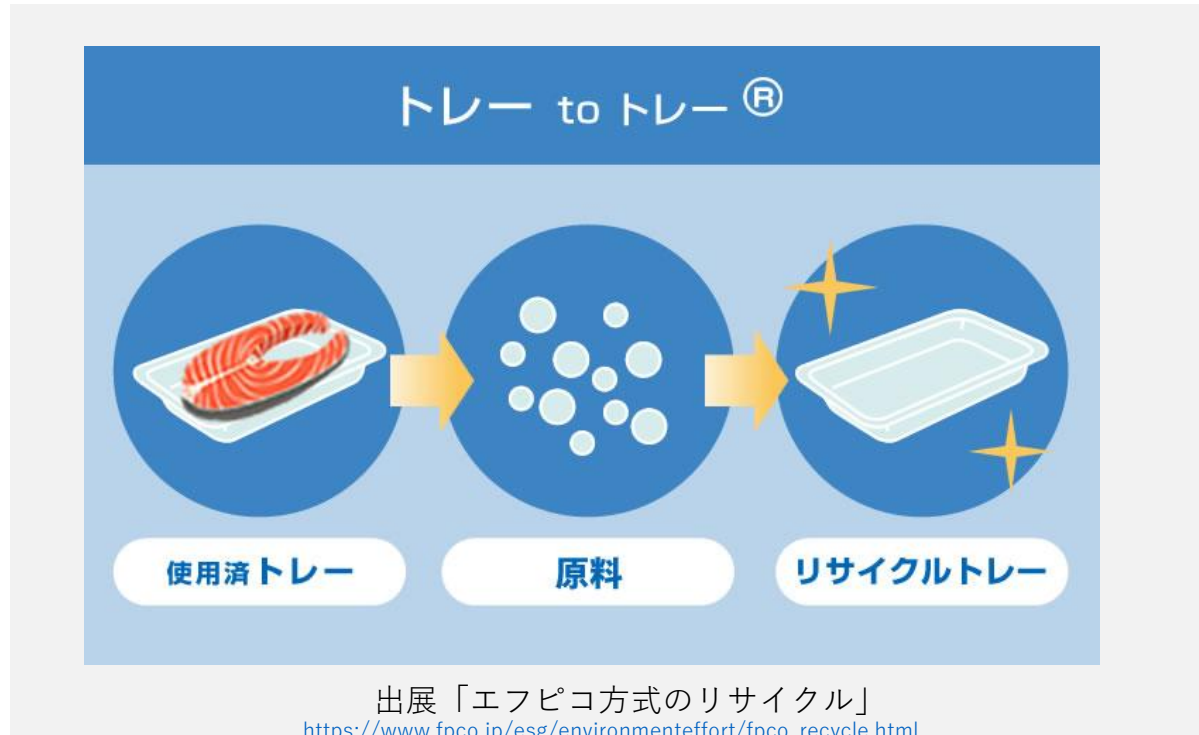
生活をまもるパッケージ

《安定供給・経済性・利便性》
《食品ロス削減》
《安全・衛生的な輸送・保存》

幸せになるパッケージ

《デザイン・デジタル・情報伝達・快適性》
《自立分散型・地域共生圏への適応》
《作り手・使い手の満足》

“飲料用ペットボトルに続こう、リサイクル優等生を作ろう” 資源としてめぐり続けるパッケージへ



- ✓ 発泡スチロール製トレーをリサイクルトレー「エコトレー®」に再生することにより、しない場合と比べて、CO₂排出量を約33%削減できます。
- ✓ 2026年3月時点の回収拠点数は全国約11,600拠点となりました。

出展「エフピコレポート2026」P33、P53
https://www.fpc.jp/dcms_media/other/FPCO_report_2026_0721_ALL.pdf

使用済み発泡スチロール製トレーのリサイクル

1980年代、全国の市町村でゴミ処理の問題が大きな社会的課題となりました。1990年、食品容器メーカーによる店頭回収が始まりました。ただ、回収したトレーは、元のトレーに戻るのではなく、別の分野や用途の商品に戻るカスケードリサイクルが主流でした。

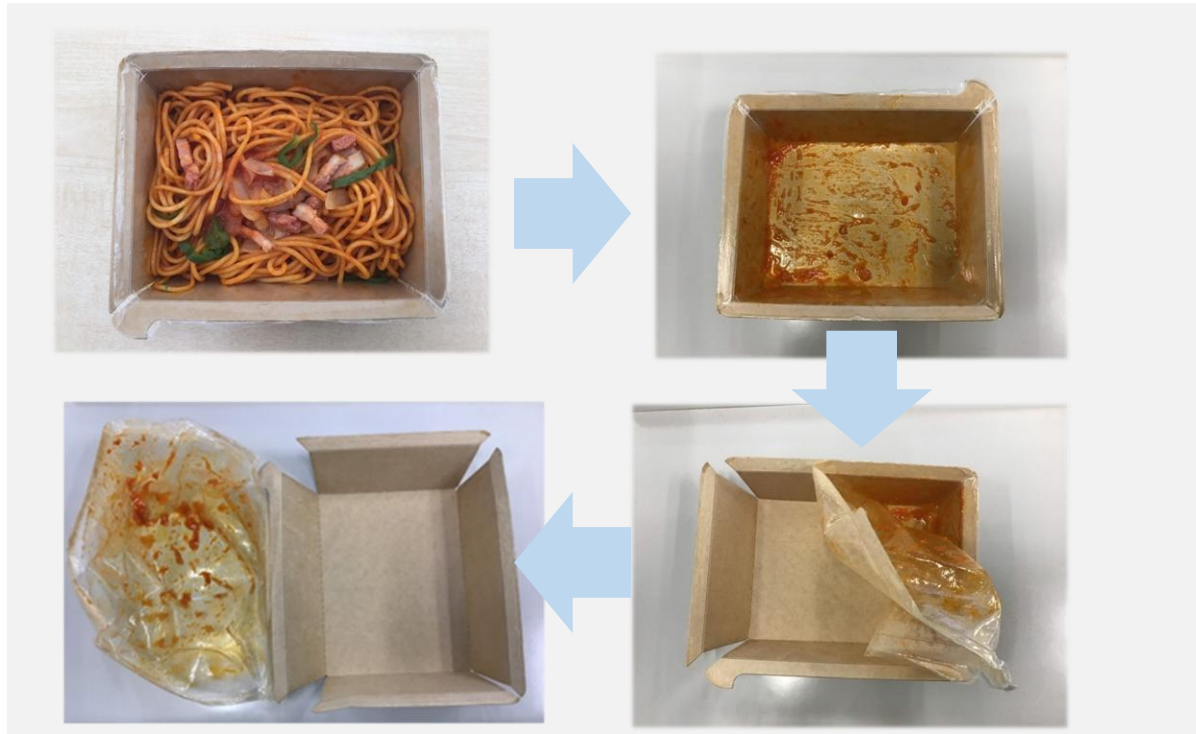
いち早くこの問題に取り掛かったエフピコは、工場に選別・破碎・洗浄・脱水・溶融など新技術と新設備を導入し、「トレー to トレー®」の循環型リサイクルを確立、持続可能な世界初のモデルを作りました。

それでも現在の使用済み食品トレーの回収率は約30%に留まり、**この運動のさらなる広がりが必要です。**



- ✓ カスケードリサイクルとは、元の商品に戻すのではなく、別の分野や用途の商品に戻すこと。
- ✓ 使用済みPETボトルから透明PET容器にリサイクルする取り組みも歴史が長い。
- ✓ リサイクル可能なトレーを選んで、洗って、乾かして、回収ボックスに投入する。この長年の生活者の協力が支えています。

“紙とプラスチックを剥がして分別” ペットボトルのキャップ・ラベル分別と同じ習慣がステキ



写真提供「北越パッケージ(株)」



✓ この「紙＋易剥離フィルム」の紙トレイは、欧州では2012年頃より採用が始まり、「Halopack」®など紙容器メーカー各社が供給しています。食品スーパーや総菜店などで見かけることができるよ。

新しい紙容器の提案 「紙トレイ＋易剥離フィルム」

「プラスチックも紙もリサイクル」

これが、世界の合言葉です。

一方、紙包装は食品残渣などが付着すると、古紙リサイクルが困難で、「燃えるごみ・埋めるごみ」になってしまう。

この新しい紙容器は、食べた後に、汚れたフィルム部分と、紙部分の分離が可能。汚れてない紙部分は古紙としてリサイクルができる。

「PETボトルのラベルを剥がす・キャップを外す」ことと同様、「紙容器のフィルムを剥がす」ことが習慣化されると良いですね！



蓋材もフィルムを使って容器を密封することが可能。ガス置換包装を行うなど、酸素バリアや水蒸気バリアを付与することで消費期限を延長、食品ロス削減に貢献することもできます。

“脱石油プラスチック” 未来のプラスチックを使ったパッケージへ進化

プラスチック原料



- 石油由来 (91%超)
- 再生材由来 (8%)
- バイオ由来 (1%未満)

・世界のプラスチック生産総量
約4億1,380万トン(2023年)…PLASTICS EUROPE
・世界の再生プラスチック生産数(メカニカル・ケミカル・他)
約3,680万トン(2023年)…PLASTICS EUROPE
・世界のバイオマスプラスチックの生産能力
約231万トン(2025年)…欧州バイオプラスチック協会

えっ! バイオぜんぜんじゃん

いやいや、これから増えるんだ。
未来の新しいビジネスになるよ。

石油の1%置き換わるだけでも
大きい数字だな(400万トン)。

だからと言って、ポイポイ捨てたら
ダメだよ。資源として循環させよう。

未来の素材、面白そうだね

非石油化学由来プラスチック

石油は枯渇資源であり、燃やすとCO₂が多く発生します。また、日本は輸入に頼るため、国内で再利用(リサイクル)したり、非石油の原料からプラスチックを作ること、石油依存度を下げる必要があります(資源安全保障)。

バイオマスプラスチック

非可食穀物や木材、草類、藻類、微生物産生などバイオマス(生物由来の有機性資源)を原料とする。これらは比較的短期間でCO₂を固定し、廃棄焼却によりCO₂を放出するため、素材としてカーボンニュートラルとされる。

生分解性プラスチック

微生物の働きにより、分子レベルまで分解し、最終的には微生物が摂取することによりCO₂と水となって自然界へ戻る。

CO₂由来プラスチック(将来)

人工光合成で得たH₂(グリーン水素)と発電所や焼却炉・コンビナートなどで発生・捕捉したCO₂を、合成触媒など様々な技術で、プラスチック原料(オレフィン等)を作る研究開発。



✓ 「生分解性プラスチック(Biodegradable Plastic)」は、広義な言葉なので、最近は専用施設で“生ごみ”と共に有機リサイクル(Organic Recycling)が可能な、「堆肥化可能プラスチック(Compostable Plastic)」という言葉が使われているよ。



✓ どうしても海洋に残留する可能性のある部材などには、「海洋生分解性プラスチック」(MARINE Biodegradable)も解決策の一つ。使用中は強度や機能を発揮し、使用後に海洋生分解性を開始する。日本はこの分野で研究と実用化が進んでいます。